

事例1 小学校のOJT実践事例

授業づくりを通して若手教員と積極的なコミュニケーションを図る

【学習指導主任として】

本校では、「互いの考えを聴き合い、伝え合う子どもの育成」を研究主題として授業実践を行っている。特に、子どもたちが安心して学び合える学習環境づくりを大切にしている。研究を推進していく中で、初任者、2年目、5年目等の若手教員と授業づくりを一緒に行っていると、教員間でも「学び合える環境づくり」や「聴き合う環境づくり」が大切だと改めて気付いた。

そこで、教員も共に学び合い、聴き合うことを通して、若手教員のスキルアップを目指した。

〈取組の内容〉

○授業づくり支援

多くの教員（中堅・ベテラン教員）が「学び合い」の姿勢で、若手教員の研究授業に向けての授業づくりに関わった。

- ・指導案の検討
- ・模擬授業の実施
- ・課題や資料提示の工夫、指導方法についてのアドバイス
- ・教材の作成

また、研究授業だけでなく、若手教員が指導に難しさを感じている実技教科の指導方法（体育のマット運動や図工の紙版画の指導法など）について、放課後や夏休みに体験しながら共に学んだ。

○若手教員との積極的な関わり方

授業づくり支援が若手教員の学びだけでなく、全ての教員の学びになるように、普段から「学び合い」や「聴き合い」を意識した。特に、職員室では若手教員に積極的に話し掛けたり、中堅教員やベテラン教員が共に学び合っている姿を若手教員に見せたりすることを心掛けた。

また、若手教員に得意分野（ICT関係等）の仕事を任せて、頼りにすることも多くある。若手教員の意志を尊重して、任せた仕事は見守りつつ、困った時には解決の方向性を示すようにした。

これが成功の鍵！

①一緒に行く

若手教員が意欲的に授業づくりに取り組めるように、考えを聴きながら一緒に行くことで成長を支えました。先輩後輩のタテの関係よりも、お互いに学び合えるヨコの関係を意識しました。

⑥役割を与える、仕事を任せる

普段から若手教員に声を掛けて、得意な分野を把握し、仕事を任せて見守りました。

【若手教員の声】

先輩の先生方と普段から一緒に授業づくりを行うことで、話しやすい関係になりました。

情報機器の操作は得意なので、よく任されます。先輩の先生方から頼りにされたり、ねぎらいの言葉を掛けてもらえたりするとうれしくなります。

【中堅教員の声】

若手教員は、意欲的に勉強したり、新しい指導法などを取り入れたりしているので、私たちもよい刺激を受けました。

「育てる」というより、若手教員が同じ仲間として「共に成長」していけるように関わることを心掛けています。



マット運動の指導法を共に学ぶ

〈取組の成果〉

- ・授業づくりを通して、若手教員は効果的な指導法を学ぶだけでなく、先輩教員との関係性も緊密になり、普段から授業の内容に関して積極的にコミュニケーションをとるようになった。
- ・若手教員を理解することで、得意分野の仕事を積極的に任せることができた。若手教員の意欲が高まるとともに、先輩教員として若手教員から学ぶことも多かった。